

クボタ

適用範囲		モデル名		U-30-6-a		
		仕様				
		適用号機		10001~		
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値		
エンジン	エンジン本体 【非電子制御式】	エンジン回転速度	min ⁻¹	2200		
		ハイアイドルリング	min ⁻¹	1150/1300		
		ローアイドルリング(キャノピ/キャビン)	(°C)	(50≥)		
		(冷却水温)	(°C)	(50±5)		
	弁すき間	mm	0.18~0.22			
吸気弁 隙間	mm	0.18~0.22				
排気弁 隙間	(°C)	(冷態時)				
圧縮圧力又は気筒間圧縮圧力差	MPa	3.24~3.72				
(冷却水温)	kgf/cm2	33~37.9				
(回転速度)	(rpm)	(250rpm)				
燃料装置	噴射ノズルの燃料噴射開始圧力	MPa	14.2			
		kgf/cm2	145			
冷却装置	ファン駆動ベルトの張り	mm	9~11			
	[測定位置・条件]		オルタネータ~ファンブリー			
	(中間を指で押す力)	N・m	58.8~68.6			
	kgとNの両方で表記	kgf	6~7			
走行装置	走行性能	最高速度	1速	秒	12.4 ~ 15.7/12.9 ~ 15.4	
		(ゴム/鉄)	2速		7.2 ~ 8.8/7.5 ~ 9.2	
		[測定方法・条件]			[図 No.7]	
	履帯 (クローラベルト)	ゴムベルト	張り	mm	10 ~ 15	
			(たわみ量)			[図 No.5]
		[測定方法・条件 (図面番号表示)]				
L・D寸法			D			
鉄シュー	張り	mm	75~80			
		(たわみ量)			[図 No.5]	
		[測定方法・条件 (図面番号表示)]				
	L・D寸法		D			
リンクピッチの伸び	mm	406.4				
[測定方法・条件]			[図 No.6]			
履板取付けボルト締付けトルク	N・m kg・m	—				
[測定方法・条件]						

クボタ

適用範囲		モデル名		U-30-6a	
		仕様			
		適用号機		10001~	
区分	検査箇所	検査項目(条件)	単位	検査基準値	
作業装置	作業機自然降下	バケット先端位置	mm	—	
		(測定時間)	(分)		
		(作動油温)	(°C)		
		作業装置姿勢			
		(図面番号表示)			
シリンダ自然伸縮	ブームシリンダ	作業装置姿勢	mm	20≥	
		(図面番号表示)	負荷kg	162	[図 No.1]
	アームシリンダ	mm	15≥		
	作業装置姿勢	負荷kg	162	[図 No.1]	
	(図面番号表示)				
バケットシリンダ	mm	10≥			
作業装置姿勢	mm	162	[図 No.1]		
	(図面番号表示)				
ブレードシリンダ	mm	42≥(キャノピ仕様) 40≥(キャビン仕様)			
作業装置姿勢			[図 No.8]		
	(測定時間)				
	(作動油温)	(°C)	(50±5)		
作業機速度	ブーム	2柱キャノピ / 上げ	sec	2.6/2.5	
		4柱キャノピ・下げ	sec	2.8/2.7	
	キャビン)				
	作業装置姿勢			[図 No.2]	
(図面番号表示)					
アームシリンダ	伸ばし	sec	2.9		
作業装置姿勢	縮め	sec	2.5		
	(図面番号表示)			[図 No.3]	
バケットシリンダ	伸ばし	sec	2.7		
作業装置姿勢	縮め	sec	1.9		
	(図面番号表示)			[図 No.4]	
	性能測定条件				
	(荷重・設定モード等)			[無負荷]	
油圧装置	油圧回路設定圧力	主回路設定圧力	MPa	24.5	
		性能測定条件 *油温	kgf/cm2	250	
	(設定モード等) *エンジン回転	(°C)	(50±5)		
	(rpm)	(フル回転)			
動力伝達装置	旋回ベアリング取付けボルトの締付け	アウトレース取付けボルトの締付けトルク	N・m	259.9~304.0	
		kgf・m	26.5~31.0		
	旋回減速機取付けボルトの締付け	インナレース取付けボルトの締付けトルク	N・m	259.9~304.0	
		kgf・m	26.5~31.0		
油圧モータ取付けボルトの締付けトルク	N・m	166.7~196.1			
	kgf・m	17.0~20.0			
旋回減速機取付けボルトの締付けトルク	N・m	—			
	kgf・m	—			
備考					

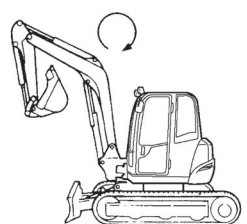
★印：新車基準値を表す。

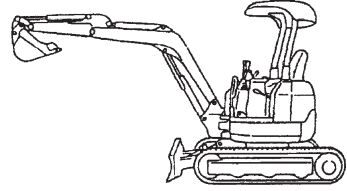
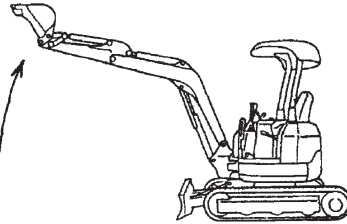
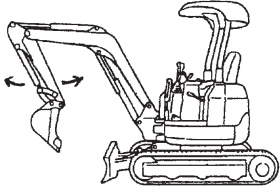
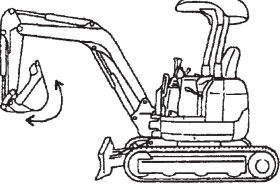
クボタ

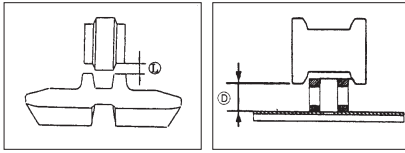
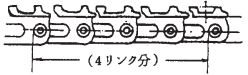
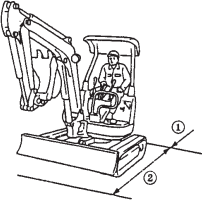
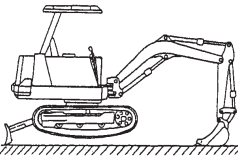
適用範囲		モデル名	U-30-6-a		
		仕様	H仕様		
		適用号機	10001~		
区分	検査箇所	検査項目 (条件)	単位	検査基準値	
動力伝達装置	クレーン時の旋回速度	2回転の所要時間	秒	11.8~17.4	
		エンジン回転数	rpm	1775 ~1825	
		測定姿勢	参照図	[図番 G-001]	

(株)クボタ

旋回所要時間の測定方法

<ul style="list-style-type: none"> 測定前に左右の旋回操作を繰り返し、旋回モーターを十分温めておく。 作動油温度を 50 ± 5 °C にする。 測定姿勢は、ブームシリンダー、アームシリンダー、バケットシリンダーを最伸長とする。 旋回姿勢は、ブームを上げ、アーム掻き込み、バケット掻き込みとする。 自動切替付の機種は、クレーンモードスイッチを押すと自動的に機種別のエンジン回転数になるので、2回転する時間を測定する。 自動切り替え以外の機種は、エンジン最高回転で、旋回操作レバーをフルストローク操作し、旋回体が3回転する時間を測定する。 <p>【注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 測定を開始する前に、旋回範囲内に人や障害物がないことを確認すること。 	<p>図番 G-001</p> 
--	---

項目	測定方法
シリンダの自然降下量 [測定要領] 1. 水平な場所に機械を置く。バケット山積負荷とする。 2. アームシリンダを一杯縮め、バケットシリンダを一杯伸ばす。 3. バケットの底面地上高さを、1m程度の位置にする。 4. ブーム、アーム、バケットのシリンダロッドに印をつける。 5. 10分間の降下量を、スケールで測定する。 油温：50±5℃	 <p style="text-align: center;">図 No. 1</p>
ブームシリンダ 1. アームシリンダ、バケットシリンダを最縮小。 2. エンジンを最高回転にする。 3. 接地→シリンダエンド間の所要時間を測定する。 注、クッション作動時間は含まない。	 <p style="text-align: center;">図 No. 2</p>
アームシリンダ 1. ブーム、アームを図の状態にする。 2. エンジンを最高回転にする。 3. アームシリンダのフルストロークの所要時間を測定する。	 <p style="text-align: center;">図 No. 3</p>
バケットシリンダ 1. ブーム、アームを図の状態にする。 2. エンジンを最高回転にする。 3. バケットシリンダのフルストロークの所要時間を測定する。	 <p style="text-align: center;">図 No. 4</p>

項目	測定方法
クローラの張り 注) ゴムクローラの場合は継目マーク(∞)を上部中央にくるようにして調整する。 調整後 1~2 回クローラを回して張代を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> クローラ部を浮かす  <ul style="list-style-type: none"> トラックローラの踏面と、リンク踏面とのすき間L又Dを測定する。 <p style="text-align: center;">図 No. 5</p>
鉄シューリンクピッチの伸び 測定方法	 <ul style="list-style-type: none"> マスタピンから 1~2 リンク離れた 4 リンク分を測定する。 シューリンクを張った状態で測定すること。 <p style="text-align: center;">図 No. 6</p>
走行性能 最高速度測定方法 条件 作動油温度：50±5℃	 <ul style="list-style-type: none"> 走行姿勢にし、各速度の最高速度が得られるまで助走する。 10m間の所要時間を測定する。 ①助走 ②測定区間(10m) <p style="text-align: center;">図 No. 7</p>
ブレードシリンダ自然伸縮 測定方法 条件 作動油温度：50±5℃	 <ul style="list-style-type: none"> フロントとブレードを使用し上図のように車体を持ち上げる。 ブレードのシリンダロッドに印をつける。 10分後の降下量をスケールで測定する。 <p style="text-align: center;">図 No. 8</p>